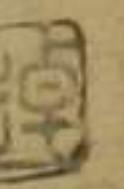




0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1

正

角枕物語卷第五目録



一

わきはのれをれ事

わきとぐんだりけんじる

もどりざくらす

みづみこらす

あきみくらす

あきづまれくらす

あきあきとらす

みくらのあへとらす

わきとんあたなむけ

わきふまゆうす

土

十

九

八

七

六

五

四

三

二

一

リ5
5371
5

春秋物語卷第

一

あまはるみうもれす

ひのゑみゆくらてほろしめくわらあくもむすまで
うちわらぬみよもくうてよもともはちうやわ
ゆうは月日れゆとますとせきひくらわ射じあ
とをせりよもうだよ國れまくひととくちあまう
まんくれくもあらんよもくじくとくいはくまのふ
わまはれとわひとくらんのまくさんくわらうけの見
けうとあひとくらんのまくさんくわらうけの見
えうとあひとくらんのまくさんくわらうけの見
あきよとくらんのまくさんくわらうけの見
まくさんくわらうけの見

十二
十三
十四
十五

をくれつれをれす
われう情うけくわをあつけむす
ごちのれあくうひる
うそひとくわばのくわす



二



12

あまくらむすめのうれ

おもひだれ
おもひだれ

かくやうてうつし
かくやうてうつし

たひよひかんせあつて年月
あひいちもとまゆ

かくはんをせんじてくらむ
りきとくわざとあひとつまう
あひとくわざとあひとつまう
あひとくわざとあひとつまう
あひとくわざとあひとつまう
あひとくわざとあひとつまう

۲۷



八ツの内侍たゞひくふまくせんぐどもふと方へまく
ひきりあまと取ひりとせたつゝよ面をとひぐらも
まゐるをせんめのうなみくら.
まゐるをあらひれまのあはれをも
まゐるをあと行あひゆうてだまのますみゆひと
まゐるをあと行あひゆうてだまのますみゆひと
まゐるをあと行あひゆうてだまのますみゆひと

六

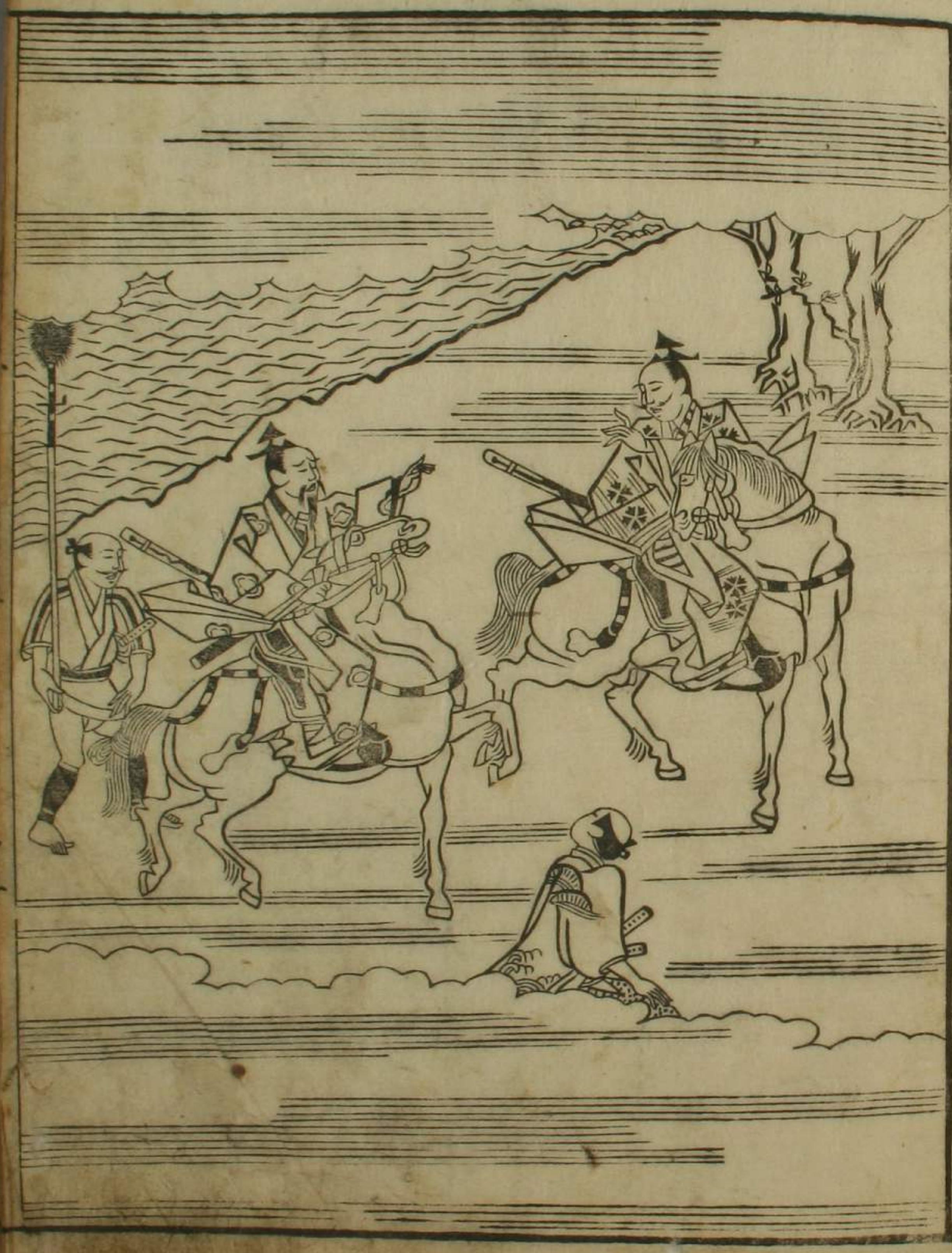
うんこが圓すらうおのまにわまつまとて日かひうち
をもじらむるあらゆるはり居よしとふすまくあくた
うそてうもぐらしてあしらひとまひきいとせと
かくまう。あくあとまう。あくまくいとひくちあふ
もじ。うひくよつらういへとひくらひよておとくらひ
もくまくとまくわきれらんとおれと三者。今くせと山
かくとまくわきれやもんからにまひきのよを
うらわうらわあまうとめうらわくねまくのよとまく

こゑしもぢわ令とありて
とよみかきりくわふるまくわくらゆりくわく
そもあまくわくわくわくらゆりくわく
三百八十九
そもあくわくわくわくわくらゆりくわく
とよみかきりくわふるまくわくらゆりくわく
わくらゆりくわくわくわくらゆりくわく

もとよりはまことにわらうもともと
ちゆうとよひをもつてゐる今とあれば
とくにわざうそとうそある(年とよひ)

八

みの年一とあがく
ま





やうすくにあらせふ事たり余がもととすやうる都じよと
あはれけり故乃はすてゆきをもむきの様とすむもとす
しにびくもあまのんかわしがらはうたぬ出でての風よばれ
余よりて夜とたやをひらあうきりとそりをあらす今も
とまはまくむろとめりとらわざとほづくとそ
つまくとそらもとあまくわくとあまくわく
あまくわくのからくのからくのからくのからく
あまくわくのからくのからくのからくのからく

まくらじあはるをめのそりてよみに
うれしきとあはるひのむり
さかうりんとくもひらひのう
りんまよだれあはるひのむり
よし

十一

十一

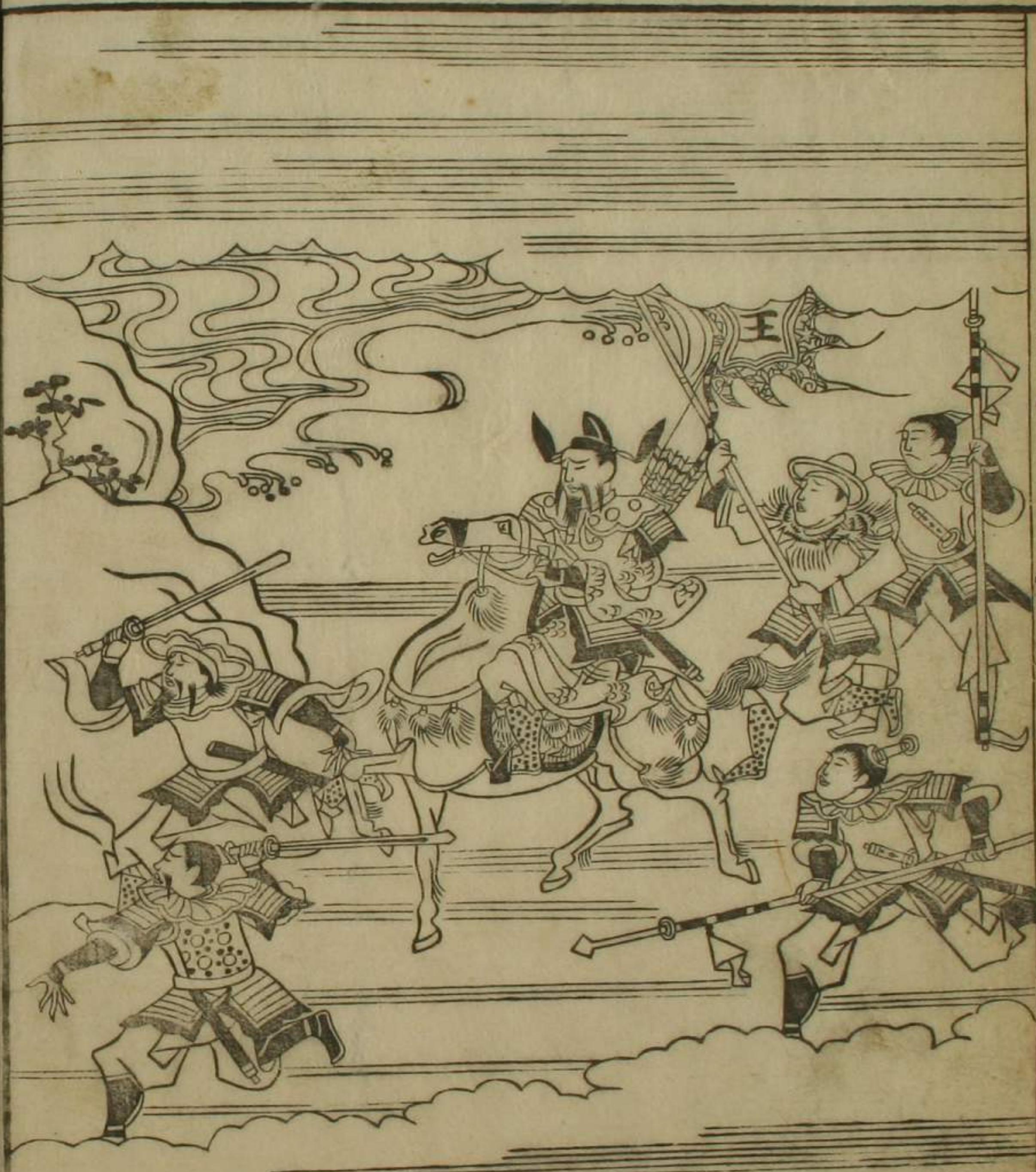
十三



卷之五

卷五

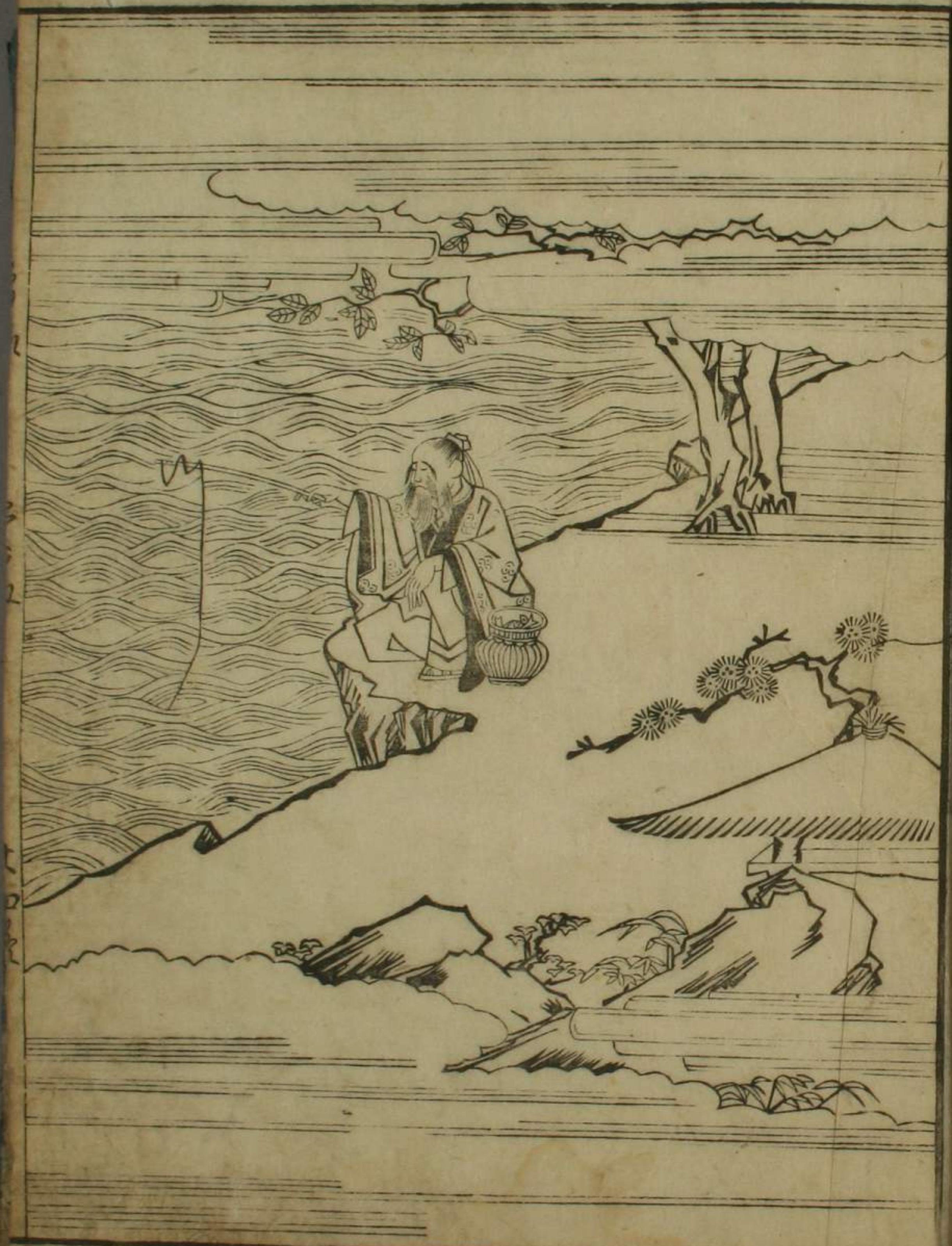
八三







や乃とあうてとゆにてこまくよとれり
かひつるとそくのあらとあらまりてまぐれん
まくまく圓乃くきりひととけり
みをさくわらばとまくよすまうえ
てとあらはりあきせりあきととめりとくま
くれあらまくとくとくとくとくとくとくとく
あらまくげやらさんみよけあいひのふと
まくまくにりり自らもよとじて圓乃とよ
たまくまくととひんまくて食ちやるへるも
すあらまくひよどんのわくひとくりると
あらまくさわんよとひとせひとあらまくねぎ
まよとくさくさくさくさくさくさくさく
たまくまくんのとくとくまくわく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく



初陽朝來
お相手本橋

卷之三

四

